ソウジュツ末
Powdered Atractyloides Lancea Rhizome

本品は「ソウジュツ」を粉末したものである。

性状 本品は黄褐色を呈し、特異なにおいがあり、味はわずかに苦い。

本品を鏡検するとき、主として短細胞、メスリンの球体、シュワ酸カルシウムの小針を含む長細胞の破片を認め、更に淡黄色の厚膜細胞の破片、短細胞の破片、コルク組織の破片、少数の繊維及び隅状細胞の破片、黄色の分泌物の小塊又は油滴を認め、てんぷん粒を認めない。

純度試験 ピックマン氏 本品 0.5 g にエタノール (95) 5 mL を加え、水浴中で 2 分間浸漬して流過した液 2 mL にバニリン・塩酸酸液 0.5 mL を加えて直ちに振り混ぜると、液は 1 分以内に赤色～赤紫色を呈しない。

灰分 7.0 % 以下。

酸不溶性灰分 1.5 % 以下。

精油含量 本品粉末 50.0 g をとり、精油定量法により試験を行うとき、その量は 0.7 mL 以上である。

ソウハクヒ Multiplex Bark
MORI CORTEX

本品はマグロ Morus alba Linne (Moraceae) の根皮である。

性状 本品は紫褐色、半管状又は帯状の皮膜で、厚さ 1 〜 6 mm、しばしば細かく横切される。外観は白色～黄褐色を呈し、周皮を付けていたものは、周皮が黄褐色ではげれやすく、多くの細かい繊維と赤紫色を有する皮質が多数ある。内面は暗褐色で、平らである。横切面は繊維性で白色～淡褐色である。

本品はわずかにおにおい及び味がある。

本品を横切片を鏡検するとき、周皮を付けたものは外側は五〜十二層のコルク細胞からなる。皮部にはところどころに節部組織又はその束があり、節部細組織と交互に枝状脈に配列し、乳管、シュワ酸カルシウムの晶出及びてんぷん粒を認め、てんぷん粒は球形や円形の晶出又は晶出で、単晶の径は 1 〜 7 μm である。

確認試験 本品の粉末 1 g にヘキサン 20 mL を加え、遠心冷却器を付け、水浴上で 15 分間煮沸した後、ろ過する。ろ液を蒸発乾固し、残留物をクロロホルム 10 mL に溶かし、その 0.5 mL を試験管にとり無水酢酸 0.5 mL を加えて振り混ぜた後、硫酸 0.5 mL を滴加して加えるとき、境界面は赤褐色を呈する。

純度試験 小異物 本品の粉末及びその他の異物 1.0 % 以上を含まない。

ソヨウ Perilla Herb
PERILLAE HERBA

本品はシソ Perilla frutescens Britton var. acuta Kudo 又はチリメンジソ Perilla frutescens Britton var. crispa Decaisne (Labiatae) の葉及び茎を切断する。

性状 本品は、束をなして縦に編んだ葉からなり、しばしば細小の茎を含む。葉は両面に帯褐色、又は上面は灰緑色～薄緑色で下面は帯褐紫色を呈する。水に浸してしばらくを延ばすと、葉身は広卵形～卵心形で、長さ 5 〜 12 cm、幅 5 〜 8 cm、先端はやや鈍く、辺縁に鋭い鋸歯があり、基部は広いやさび状を呈する。葉柄は長さ 3 〜 5 cm である。葉及び葉柄の横断面は方形である。葉をループ状するとき、両面に毛を認め、毛は葉脈上に多く、他はまばらである。下面には細かい線維を認められる。

本品は特異なにおいがあり、味はわずかに苦い。

確認試験 精油含量で得た精油とキシレンとの混液 0.3 mL をとり、無水酢酸 1 mL を加えて振り混ぜた後、硫酸 1 滴を加えるとき、液は赤褐色～暗赤紫色を呈する。

純度試験
（1） 茎 本品は径 3 mm 以上の茎 3.0 % 以上を含まない。
（2） 異物 本品は茎以外の異物 1.0 % 以上を含まない。

乾燥減量 13.0 % 以下（6 時間）。

酸不溶性灰分 2.5 % 以下。

精油含量 本品の粉末 50.0 g をとり、精油定量法により試験を行うとき、その量は 0.2 mL 以上である。ただし、あらかじめフラックス内の試料上にシリコン樹脂 1 mL を加え、試験を行う。

ダイオウ Rhei Rhizoma
大黄

本品は Rheum palmatum Linné, Rheum tanguticum Maximowicz, Rheum officinale Baillon, Rheum coreanum Nakai 又はそれらの種間雑種 (Polygonaceae) の、通則。根茎である。

本品は換算した生薬の乾燥物に対し、センノシド A 0.25 % 以上を含む。
性状 本品は卵形、長卵形又は円柱形を呈し、しばしば横切又は縦切され、径 4 〜 10 cm、長さ 5 〜 15 cm である。
皮層の大部分を除いたものでは、外層は平滑で、黄色調～淡褐色を呈し、白色的細かく飾り目の模様が見られるものがあり、質は柔らかで堅い。コルク層を付けているものは、外層は黄色または赤褐色を呈し、あらわしやすい。質はあらわれきる。本品の断端は繊細でない。本品の横切面は灰褐色、淡褐色や淡黄色で、褐色にかび色及び黒褐色の入り混んだ複雑な模様がある。この模様は皮層の付近でしばしば放射状を呈し、また、顕微鏡下では径 1 〜 3 mm の褐色の小円の中から放射状に走る放射状の組織がなれ、皮層に並ぶか、又は不規則に散在している。
本品は特異なにおいがあり、味はわずかに苦くて、かため細かい砂を発するような感じがあり、舌を黄に染める。
本品の断面を鏡検すると、大部は柔細胞からなり、細胞にはところどころに細長い異型細胞があり、その内側には系状、外層には本層の形をなしている。褐色の着色物質を含む二〜四列の放射組織を伴い、これが形成層の中心から放射状に向かって走りつつ、つまるよう組織となっている。柔細胞はでんぷん粒、褐色の着色物又はシュウ酸カリシウムの結晶を含む。
確認試験 本品の粉末 2.0 g にテトラヒドロフラン/水混合液 (7:3) 40 mL を加え、30 分間振とうした後、遠心分離する。上清を分液漏斗に移し、塩化ナトリウム 13 g を加え、30 分間振とう。分離した水層を不溶の塩化ナトリウムと共に分取し、1 mol/L 塩酸液を加えて pH 1.5 に調整する。この液を別の分液漏斗に移し、テトラヒドロフラン 30 mL を加えて 10 分間振とうした後、分離したテトラヒドロフラン層を分取し、試料溶液とする。別に薄層クロマトグラフ法用セノシッド A 1 mg をテトラヒドロフラン/水混合液 (7:3) 4 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 40 μL を薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板に原液で平行に長さ 10 mm にスポットする。次に 1-プロパンール/酢酸エチル/水/酢酸（100）混合液（40 : 30 : 1）を展開溶媒として約 15 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線（波長 365 nm）を照すときに、試料溶液から得た数個のスポットのうち 1 個のスポットは、標準溶液から得た赤色の蛻光を発するスポットと色調及び Rf 値が等しい。
純度試験 アクチノシン 本品の粉末 0.5 g をとり、エタノール（95）60 mL を正確に加え、還流冷却器を付けて水浴上で 10 分間加熱した後、遠心、30 分間振とうする。この液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液 10 μL を薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にイプロピルエチル/メタノール/1-プロパノール/水（26:7:7）を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線（波長 365 nm）を照すときに、Rf 値 0.3 〜 0.6 に青白光の蛻光を発するスポットを認めることがあっても青紫色の蛻光を発するスポットを認めない。
乾燥減量 13.0 % 以下 (6 時間)。
エキス含量 希エタノールエキス 30.0 % 以上。
成分含量測定法 本品の粉末約 0.5 g を精密に量り、炭酸水素ナトリウム溶液（1 〜 1000）50 mL を正確に加え、30 分間振とうした後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。別に成分含量測定用セノシッド A をディシスター（減圧 0.67 kPa 以下、酸化リン（V））で 12 時間以上乾燥し、その約 0.01 g を精密に量り、炭酸水素ナトリウム溶液（1 〜 1000）に溶かし、正確に 50 mL とする。この液 5 mL を正確に量り、炭酸水素ナトリウム溶液（1 〜 1000）を正確に 20 mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 10 μL を正確に量り、次に条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う。それぞれの液のセノシッド A のピーク面積 A1 及び A2 を測定する。
セノシッド A の量（mg）= 成分含量測定用セノシッド A の量 (mg) × A1 / A2 × 0.25
操作条件 検出器：紫外吸光光度計（測定波長：340 nm）
カラム：内径 4 〜 6 mm、長さ 15 〜 25 cm のステンレス管に 5 〜 10 μm の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリカゲル（100）を充てんする。
カラム温度：40 ℃ 付近の一定温度
移動相：薄層の酢酸（100）(1 〜 80) / アセトニトリル混合液（4:1）
流量：セノシッド A の保持時間が約 15 分になるよう調節する。
カラムの選定：成分含量測定用セノシッド A 及び薄層クロマトグラフ用シリンジ 1 mg ずつを炭酸水素ナトリウム溶液（1 〜 1000）に溶かして 10 mL とする。この液 20 μL につき、上記の条件で操作するとき、セノシッド A、ナトリウムの液に溶かし、その分離速度が 3 以上のものを使う。
試験の再現性：上記の条件で標準溶液につき、試験を 5 回繰り返すとき、セノシッド A の相対標準偏差は 1.5 % 以下である。

ダイオウ末
Powdered Rhabar
RHEI RHIZOMA PULVERATUM
大黄末

本品は「ダイオウ」を粉末としたものである。
本品は換算した生薬の乾燥物に対して、セノシッド A 0.25 % 以上を含む。
性状 本品は褐色を呈し、特異なにおいがあり、味はわずかに苦くて、かため細かい砂を発するような感じがあり、舌を黄色に染める。
本品を鏡検すると、でんぷん粒、暗褐色の着色物又はシュウ酸カリシウムの結晶。これらを含む柔細胞の破片、絹糸維管の破片を認める。でんぷん粒は球形の単粒又は 2 〜 4 個の複数で、単粒の径は 3 〜 18 μm まれに 30 μm、シュウ酸カリシウムの結晶は径 30 〜 60 μm で 100 μm を超えるものもある。
確認試験 本品 2.0 g にテトラヒドロフラン/水混合液（7:3）